林大だより

第 74 号　　平成 29 年 10 月 20 日　　長野県林業大学校翌桧会

2 学 年　オーストリア研修

1学年　屋久島研修

1・2学年　木曽町幸沢

もう一つの基本

長野県林業大学校　校長　山口　勝也

前回の「林大だより」では、樹木学が基本の「き」と書かせていただきましたが、もう一つベースとなるのがチェーンソーです。林大ではチェーンソーの構造、手入れ、作業の安全を修得したうえで、丸太の鋸断の練習、立木に見立てて立てた丸太の模擬伐倒、そして実際の立木の伐倒へと進みます。

ここで誰もが苦戦するのが、受口と追い口の確実な切り込みです。苦戦の原因の一つは自分の思い通りにチェーンソーが扱えないこと。水平に切り込もうと思っていても、チェーンソーを正確に保持できず、斜めになりがちです。二つ目の原因は立木の向こう側が見えないことです。手前側はどこまで切ったか目視で確認できますが、向こう側は確認できないので、アクセルを離し、覗きこまなければなりません。特に気を付けなければならないのが追い口切りで、向こう側の確認を怠って切りすぎると、想定外の方向へ立木が倒れ、大きな事故につながりかねません。

寮生活　昼食風景

このハードルを越えていく手立ては反復練習のみです。ただし、数をこなせば良いというものではありません。ある外部講師からは、何十年と経験を積んだ現場の技能者でも、受口、追い口を確実に作れない人がいる、という話をお聞きしたことがあります。正確に切ることを常に意識し、自身の作業を振り返り、評価し、改善策を立てて、また実践していく、いわゆるPDCAサイクルで改善、上達を図りつつ、反復練習をしていかなければなりません。

将来、林業の現場で立木を伐る仕事に就く学生は勿論ですが、森林組合等の内勤や公務員になる学生も、確実な伐倒技術を持っていれば、現場からの信頼を得やすくなることは間違いありません。学生には、水平、垂直の鋸断が確実にできること、鋸断中には見えない丸太の向こう側の切れ具合を的確に把握すること、これらを総合して切り込む受口と追い口を思い通りにつくれるようになるまで、繰り返し練習して欲しいと思います。

木曽町駅伝大会

「かんこう」しよう！

木曽森林管理署　署長　新津　清亮

ひとつは「観光」。若いときに上司から「赴任した地域の観光名所はすぐに見学しておかないといつでも行けると思っていて行きそびれてしまうよ」とアドバイスされた。自分では心がけたつもりでも振り返ってみるとその通りになってしまった。林大の所在する木曽は京都と江戸を結ぶ中山道の中間地点であり、林業と観光で栄えてきた。昨年、日本遺産に認定され「木曽路はすべて山の中」と紹介されているが、中山道を行き交う人々により木曽街道には日本中の情報が集まってきたことから木曽十一宿には高度な文化が育まれてきた。林大生が忙しいのは承知しているが是非とも木曽を観光して歴史や文化に触れて欲しい。

もう一つは「勘考」。今はあまり使われない言葉ですが意味は「よく考えること」「思案すること」です。現在はパソコンや携帯で検索するとどんな情報でもすぐに調べることができる。これはとても便利ですごく有難いことではあるが一方で、じっくりと考える機会が少なくなってしまっているのではないか。

日本の森林は戦後造成してきた人工林が五十～六十年生中心になりいよいよ利用可能な状況となった。林野庁は林業の成長産業化を提唱している。資源の少ない日本において循環利用できる数少ない資源であり、人口減少に悩む地域にとっても大いに期待されている。しかしながら、日本で使われている木材の三分の二は外材で、木材価格は低迷し森林所有者等は山林経営に意欲を失い、林業従事者も減少している。現在の林業には問題が山積みになっており、何もしないで成長産業となることは考えられない。林業を学んでくれている若い皆さんに日本の森林や林業の行く先についてしっかりと「勘考」していただき、そして向かう先を決めたら果敢に「敢行」して欲しい。林大生のご活躍を大いに期待しています。

インターンシップ発表会

林大生に期待すること

木曽山林協会　事務局長　征矢　博

私は、木曽郡下の町村、森林組合を会員とする木曽山林協会で仕事をしています。地元の木曽出身で退職してから戻ってきました。高校卒業当時と比べ、道路状況もよくなり松本や伊那へも車で通勤できる便利な時代となりましたが、一方で、町の通り、駅の構内など様々な場所で人口減少が身近に感じられ、賑やかさも無くなってきています。

林大生の皆さんがアルバイトやお祭り、イベント等に積極的に参加され、どれだけ地域に貢献されていることか誰もが認めているところです。

そんな皆さんに、木曽で就職し、木曽で家族を持って生活することを望みたいのですが、それは無理なことですから、時々は遊びに来るなどして第二の故郷としていつまでも見守っていただきたいと思います。

さて、林大生に期待することですが、これから皆さんは、それぞれ全国各地で林業関係の仕事に従事され、一生の仕事として続けられることでしょう。日本の森林は、人工林を中心に成熟期を迎え、森林資源を有効に利用する時代と言われています。皆さんの主な仕事は、まさに先人が夢見てきた木を切って使う仕事になります。豊かな森林資源を基盤に、山村地域の柱となる林業・木材産業にしていただくことを一番に期待します。

教育会館前に島崎藤村の手紙の一節から「すべての人を師とするは予の願ひなれば君もし予の心を用ひむとならば願はくは予一人を頼まずしてすべての人を師とせられよ」という石碑があります。先生はじめ多くの人々から学び、一人ひとりが将来の夢や目標を持ち、広い視野を持って進んで行くことを期待しております。

学生のページ

あすなろの呟（つぶやき）

学校・寮生活から

林業大学校に来て知ったこと

1学年　青柳　大輝

自分が春に林業大学校に入学してから、早くも半年が経とうとしています。「慣れ」や「成長」というのは自分が思っていた以上に凄まじいもので、入学した頃は林業や寮生活など、右も左も分からなかったというのに今や「歴代の林大生と同じように林大生ができている」様に感じ、嬉しく思いながら生活しています。

さて、自分が林大生になってから、知ったことが幾つかあります。一つ目は、コミュニケーションの大切さです。自分が入学したばかりの時、先生方や先輩方が優しく笑顔で話しかけてくださったおかげで林大生活により早く適応することができたので、来年は自分たちが後輩にしてあげたいです。二つ目は、林業の面白さと厳しさです。現場で実習したり教室で理論を学んだりすることは、とても面白い反面、体力など様々な面で自分の未熟さを感じますので、これからももっと精進していきたいです。

自分はまだそういったことについて「知った」だけで「学び」になっていない部分もあると思います。これからは「学び」になるように精進していきたいです。

4月　1学年　城山登山

林業大学校に入学して

1学年　木島　宙士

長野県林業大学校に入学し早くも五ヶ月が経ちました。入寮前、私は不安なことだらけでした。同じ部屋の人とは仲良くなれるのか、先輩達は優しいのだろうか、勉強では置いていかれないだろうかなどの不安がありました。しかし、そんな心配は要りませんでした。同じ部屋の人たちとはすぐに仲良くなれ、さらに寮全体の人ともすぐに仲良くなれました。先輩方もとても優しく気さくに話しかけてくれ、とても接しやすく楽しい寮生活を送れています。一番心配していた勉強の面でも同じ一学年の仲間が教えてくれ、先輩や先生方も優しく教えてくれるので、置いていかれることもなく勉強が出来ています。私がはじめ不安に思っていたことは、何も心配の要らないことなのだと思いました。

林業大学校は全寮制で、はじめは不安なことや続けていけるのかという気持ちがあったのですが、五ヶ月経った今では全寮制でよかったと思っています。林業大学校にいれる時間はあと約一年半しかないので、これからの一日一日を大切にしていきたいと思います。

5月　1学年　造林学実習

充実した毎日

１学年
高山　鈴佳

林業大学校に入学してから早くも半年が経ち、ようやく生活にも慣れてきました。全寮制という環境で今まで学んでこなかった林業を学ぶという生活は、今までとは一八〇度違う毎日で、私に楽しさや充実感を与えてくれています。そして半年という期間があっという間に過ぎたように感じさせました。

しかし今だからこそ、このように楽しく語ることができますが、この生活が始まった当初は不安でいっぱいだったのを覚えています。体力面での心配はあまりしていませんでしたが、学習の面で普通科出身の自分が、森林科や農業科などで学んできた人達と同じように授業についていけるのか、とても不安に感じていました。しかし林業大学校の先生はもちろん、外部からいらっしゃる講師の方々も丁寧に分かりやすく指導してくださるので、楽しく勉強することができています。そして一緒に学ぶ仲間もいてくれることで頑張ることができます。

こういった恵まれた環境で充実した生活をおくれていることに感謝の気持ちでいっぱいですし、自分は本当に幸せ者だなと思います。この気持ちを忘れずに残りの林大生活を楽しみながら過ごしていきたいです。

６月　１学年　体験研修

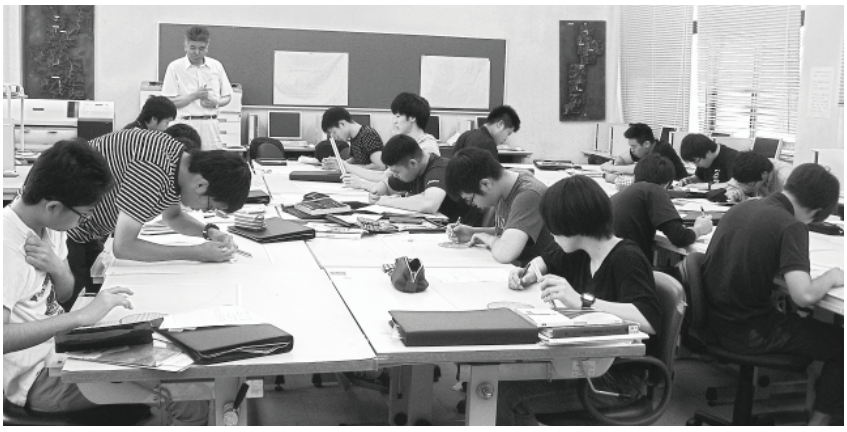
林業大学校に入学して

１学年
福原　清文

高三の冬までこの林大に入れるか心配で合格までの時間が長く感じられたのに、試験に合格してから今まであっという間でした。入学当初の僕としては、まず普通科出身の僕が林業の勉強についていけるのか不安でした。知識も経験もない僕でしたが、今までを振り返ってみると、学ぶことがとても楽しくて、本当にここに入学してよかったと思いました。

また、寮生活についても不安がありました。先輩や同級生とうまくやっていけるか、怖い先輩がいたらどうしようと思うこともありました。しかしながら、寮生活はそんな不安はなく、むしろ先輩に相談に乗ってもらうこともしばしばありました。とてもアットホームな空間で居心地がいいです。

林大での経験は、将来就職するにあたって絶対に役に立つと思います。これからの林大生活が悔いの残らないように様々なことを吸収していき、自分の糧となるよう頑張りたいです。



７月　１学年　測量学

林大に入学し半年たって…。

１学年
山下　憂大

長野県林業大学校に入学して、もう半年が過ぎました。入寮前にはどんな同級生が来るのか、どんな先輩方がいるのか、同級生や先輩方と仲良くやっていけるのかなど不安が沢山あったことを覚えています。しかし、入寮日に初めて先輩方に会ってみると、笑顔で出迎えてくださり安心したこともあり、これからの林大での生活が楽しみになりました。

実際に学校生活が始まり、今では同級生や先輩方と仲良くなり毎日楽しく過ごしています。勉強の部分でも最初は一般教科等についていけるのかと思っていましたが、わからない部分などは、同級生や先生、先輩方に教えてもらい勉強しています。専門教科に対して、自分は高校の時林業科だったので、林業の方は少し経験がありましたが、高校

の時とは違い、チェーンソーや刈り払い機などの実習でもより深く学ばせてもらい、一日一日が貴重な体験で楽しく安全に実習に取り組んでいます。

最後に、自分には将来の夢が明確に決まっています。二年という短い時間の中で、どれだけ夢を達成するかが大切になってくると思います。一日一日「夢を達成するために頑張ろう」という意識を強く持ち、これから林大生活を過ごしていけたらいいなと思います。

４月　２学年　木材商業論研修

林大生活

２学年
岡本　昂大

林大生活も始まり一年と半年が過ぎました。こうして思い返すと本当にあっという間でした。特に二年生になってからのこの半年は矢の様に過ぎていきました。しかし、内容は充実しており（自分で思うに笑）先輩、後輩、先生、同級生達との思い出が溢れかえっています。思い出すたびに笑っちゃうようなことから、やっちまった！なんて思うことまで様々です。そんな毎日が当たり前に明日もある、という感覚で今までの日々を生活してきました。しかし、来年からは今までと一変し社会の一員としての生活が始まり（るのか？）今のような生活は味わえなくなります。明日もある、次がある、なんていう認識では今後の半年間に後悔を生んでしまうかもしれません。今日しかない！今しかない！という意識を持って何事にも貪欲に食らい付いていく姿勢で残りの半年を盛大に過ごしていきたいと思います。時には挫折したり失敗したりすることもあると思いますが様々な経験を通して年齢だけじゃなく精神的にも大人になっていけたら、と思います。というかならなきゃ、なんですけどね笑。

林大生活を振り返って、残りの半年をどう過ごすか

２学年
小林　康平

早いもので林業大学校に入学して一年と半年が過ぎました。改めて考えてみるといろいろなことがありました。入学してすぐの屋久島研修、木曽福島の祭りへの参加、初の駅伝大会、みこしまくり、初の海外であるオーストリア研修など多くのことを一年半で体験してきました。そして私は、大けがで一か月入院ということもしてしまいました。多くの人にご心配をおかけしました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

林大生活もあと半年になりました。つまり社会に出るまであと半年になった、ということです。正直に言えば今の自分が社会に出てもきちんと仕事ができるのか、きちんと生活をしていけるのかという不安はあります。しかし、歳月人を待たずというように時間は待ってくれません。悩んでいるよりも今ある時間を大切にして、社会に出ても恥ずかしくないようにできることをしていきたいと思います。そして最後となる学生生活を精一杯楽しんで、卒業する際に悔いのないようにしたいです。

５月　２学年　車両系建設機械技能講習

人と時間の大切さ

２学年
白澤　沙紀

私は、幼少期まで周りの人に「時間は早く過ぎるから大切にしなさい」と教えてもらい、今日まで育ってきました。高校を卒業した後もその言葉の本当の意味を理解できているようで、できていませんでした。しかし、林大に入学してからあっという間に二年が過ぎ、卒業まで半年を切ろうとしています。この一年半、一日一日を大切に過ごしてきたつもりなのに「もっとああしておけばよかった」と後悔することが何点かあります。林大に入学してから、授業や実習、インターンシップなどを通じて多くの方と出会うことができました。残り半年、後悔することの無いように毎日を振り返り、学校の仲間やお世話になっている先生や地域の方々を大切にしていきたいです。

６月　２学年　木材加工学実習

林大生活

２学年
長﨑　祥也

私が林大に入学してから、もう一年と半年が過ぎました。私は普通科高校から林大に入学したのですが、入学当時は林業のことも分からない、初めての寮生活など、不安が沢山ありました。しかし、やさしい先輩方や一緒に騒ぐことのできる同級生のお陰で、すぐに慣れることができました。全く分からなかった林業も各講師の先生方が一から丁寧に教えてくれたので、何とか勉強についていくことができました。今年度に入り、後輩たちが林大に来てくれました。去年まで先輩に頼ってばかりだったので、先輩として行動できるか心配でした。二年になりレポートやインターンシップ、就職活動に追われて、気付けば林大生活が残り半年になっていました。この調子で行けば卒業まではきっと一瞬ですので、林大生活で思い残すことがないよう、一日一日を大切に生活していこうと思います。

素晴らしきかな、林大

２学年
宮田　拓実

絶対に落ちたと思いながら暗い気持ちで木曽福島駅まで歩いた（迷子になった）事も今では良い思い出です。林業大学校に入学した私は、優しく面白い先輩方や、頼れる同級生に恵まれ、不安も徐々に抜け、楽しく充実した日々を過ごす事ができました。そして私は二年生になり、先輩方が言っていた「二年間はあっという間。」というお話は、本当その通りで、授業も外での実習が増えて、より専門的になり、時の過ぎ去るスピードが早く感じます。高校から本格的に林業を志し、現在こうして自然や林業の授業を受けていられる事は、とても幸せな事だなと思います。そんな生活もあと五ヶ月となってしまいましたが、残りの学生生活は、新たなステージに向けて技術取得と学業に励んでいくと共に、楽しんで過ごしていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

７月　２学年　みこしまくり

保護者のページ

会の一言

息子が進学して思うこと

一宮 信毅

息子が大分県から遠く離れた林大にお世話になるようになってからもう五か月が過ぎました。

彼は、子供の時から運動するのが好きで、部活動には一生懸命に取り組んでいましたが、学校の勉強からは目をそらしてきた面があったかと思います。

そんな中、長野県林業大学校に進学を決めたことは、親が林業の仕事に携わっていたことが少しは影響したのかな、と思います。

私が彼に伝えることがあるとすれば、人格を形成していくうえで、当然自分の考えがなければなりませんが、自分に影響を与えてくれる人と如何に出会えるかだと思うのです。

林大に入学された生徒の皆さんは、林業に深い関心があって、林業の先進地である長野県に志を持って集まっている方ばかりだと思います。

彼にとっても、この縁を活かせるかどうかは自分次第だと思います。

その縁を活かしつつも、いつかは習得した技術を大分県に持って帰り、種をまいてもらいたいと思っています。

大切な二年間、しっかり学ぼう！

櫻井 昇

まず、息子を林業大学校に入学させて頂き感謝を申し上げます。

入学式の緊張した表情から、学校生活、寮生活、初めて親元を離れての生活、大丈夫かなと親として心配がありました。ところが、初めて息子が帰省した時の表情は、生き生きとしていました。この短い期間でも成長を感じられ、親として一安心でした。学校は楽しいし、意外にも…寮生活が快適との事でした。先輩や同級生との生活は楽しそうでした。日本中から来ている仲間は新鮮に感じるそうです。個室の生活を求める学生が多い中、林大生の寮生活は人間成長に関わる貴重な生活空間であると感じ、羨ましくも思いました。

林大の年間事業計画を見ると充実した計画になっています。屋久島研修旅行も学べたそうです。この二年間を大切に、生涯の友と将来の夢実現に向かってしっかり学んで下さい。

先生方をはじめ、お世話になる皆様、ご指導の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

オープンキャンパス

ガンバレ！

南坂 博和

小学校の頃から「林業」に興味を持ち、高校は林業の専科のある「木曽青峰高校」を自分で探し、三年間の寮生活を送りました。

郷里の大鹿村は、南アルプス赤石岳などの急峻な山々に囲まれた、「日本で最も美しい村」連合の一員です。小学校では毎年「ふるさと学習」が行われ、五・六年生は「森林」に触れ合う時間があったことや、妻も私も国有林に勤めていることが影響しているかもしれません。

林業は三K産業と言われ、若い人の就労が少なく、労働者の高齢化が進み魅力に乏しい産業でしたが、最近では「キツツキと雨」や「WOOD JOB!」などの映画が上映され注目を集めています。また、政府では、木材受給率五十%、低炭素社会の実現を目指し、林業に関連する様々な施策を打ち出しています。林業はこれから発展していく分野だと感じています。林大で学べる二年間では、林業に関する沢山の知識の習得や最新の技術を体験し、立派な「林業マン」に育ってくれることを期待しています。

二年間を充実した時間に！

堀井　健治

昨年、林大オープンキャンパスに本人、妻の三人で参加させていただきました。「全人教育」を理念に人間性を磨き林業の基礎的な知識・技術を身に付ける。一学年二十人での手厚い教育体制、全寮制での生活といった内容で説明をいただきました。特に寮での見学で部屋を拝見させていただき、二段ベッド二個の配列を見たときには、私自身の三十年前と同じ光景が目に入りました。入社当時は全寮制の一部屋四人で同じ釜の飯を食べてお互いに学業、実習を通じ、切磋琢磨した時期であり、自分自身の成長の原点の一つであり、良き思い出となっています。この場所で二年間勉強ができるなら必ず本人のためにはなると確信しました。運良く入試で合格をいただき入学することができ、既にもう五か月が経過しています。本人も充実した学業生活を過ごしていると思いますが、二年間という期間は決して長い時間ではありません。悔いの無いように毎日全力の意気込みで取り組んでいってもらうことを期待しています！最後になりますが先生方、寮母さん、先輩、同僚の皆様方これからもお世話になりますのでよろしくお願いいたします。

９月　１学年　林業機械学実習

未知との遭遇

吉越　まゆみ

緊張の入学から四ヶ月、夏休みに帰ってきた息子は、あきらかに以前より体がひきしまり、なんだか自信に満ちあふれた顔つきをしていました。質問するまでもなく、充実した生活をしていることが伝わり、安心しました。

些細なことがきっかけで、まったく未知の林業の世界に足を踏み入れましたが、きっかけはどうであれ、自分の進む道を見定めている息子の姿は頼もしく感じられました。

まだまだひよっこではありますが、いずれ日本の林業を支える人材になれるのではないかと大いに期待し、又送り出そうと思います。

先日、花屋の店先で、木曽ひのきのりっぱな植木鉢カバーを見つけました。いい匂いがしました。やすらぎました。最近は木の偉大さや、ありがたさを改めて感じる機会も多く、私の世界も広がりつつあります。未知との遭遇を試みる息子のおかげと思っています。

人との関わりを大切に

池上　義輝

「しっかり勉強と共同生活してこいよ」と二〇一六年四月に送り出し、しばらくして「同部屋の人達と夕飯食べに行ってきたよ」と、まずまずの滑り出しだと感じ、早くも一年半が経過。残り半年となりました。私も「木望祭」にてコケ玉に出会う事ができたり、安全なチェーンソーの使い方を知る事ができたのも林大関係者の方々のおかげと感謝しています。

今年の「みこしまくり」を見に行きましたが、お祭係の方が「林大生の皆さん！こちらで休憩してくださ～い」（なんという好待遇！と思いながらも）地域に密着してとても大切にされている様子が伺えました。この様に、私達が知る事ができるのは氷山の一角かもしれませんが、どの様な場面でも人との関わりを大切にしていけば多くの事をより楽しく感じる事ができ、何よりこれから直面する幾多の困難も乗り越えられると思います。そして、他人と自分を同じ様に大切にできる人が充実した人生を歩めるのではないでしょうか。

林業大学校に学んで

江崎　栄子

息子が林業大学校に入学してから、早いもので一年と半年が過ぎました。将来は、林業の道に進みたいと自分で学校を探して受験し無事に合格して進学しました。はじめのうちは、鹿児島県から遠く離れた長野県でしっかりとやっていけるのだろうかと不安もありましたが、息子と話をする中で、素晴らしい先生方や友人に恵まれ、学校での授業や現場実習、寮生活のことな

息子の成長

坂井　雅弘

ど、充実した日々を送っていることが手に取るようにわかり、長期休暇で帰省してくるたびに成長している息子を見て、安心しています。七月のオーストリアへの研修旅行でも、たくさんの貴重な経験を積み、とてもいい思い出になったようです。

三月の卒業式まで半年となりました。卒業式を終えると、四月からは社会人です。林業大学校で学んだことを、実社会で生かして頑張ってほしいです。そして、未来を担う立派な林業の後継者へと成長してほしいです。

入学してから早いもので一年半近くが過ぎ、息子も色々な経験体験をして、帰ってくるたびに一回り二回りと成長してきました。これも寮生活で学んだ協調性の御陰だと感謝しています。

自分の思い通りにならなくても我慢する事を学び本当にこの学校に行かして良かったと喜んでいます。

体を動かし手先も頭も使い、安全のために細心の注意を払う林業の仕事がしたいと言い、長野県林業大学校に入学させていただきました。家族皆、本当にあの子に辛抱出来るかと心配していましたが帰ってくるたびに成長していく息子を見て本当に良かったと感謝しています。大きな声で表情も生き生きとして学校生活・寮生活の楽しさを話してくれる息子。

本当に苦楽を共にした仲間との出会が一生の宝物になるでしょう。

残りわずかな学校生活「夢」に向かって大きく羽ばたけ！

９月　２学年　林業機械学実習

道を切り開く

田野　守男

幼い頃、映画「もののけ姫」を観て芽生えた森へのあこがれ。それはやがて森林への興味関心となり、迎えた大学受験。しかし、やりたいことと大学の学部とで悩み、志望校を決めかねていました。そんな時、高校の先生から紹介されたのが林大でした。「ここに行きたい！」ようやく志望校が決まりましたが、すでに十二月。そこから入学までではとてもあわただしく、あっという間に時が過ぎました。

娘でもあり、決して近くはない長野県へ行くことに不安もありましたが、初めて帰省した時、以前より積極的に自ら行動する姿に、全寮制による全人教育を実感しました。また、屋久島研修やオーストリア研修等貴重な体験をし、帰省の都度充実した日々を楽しそうに話す様子は、とても微笑ましく思います。今、林大で学ぶ喜びを感じていると思いますが、それも高校の先生、林大の教職員の皆様、先輩・友人ら周囲の助けがあればこそ。感謝の気持を忘れないでください。

そして次は、林大で習得した知識・技術を生かして、社会という森にしっかりと根を張り、枝葉を茂らせ、年輪を重ねていってほしいと思います。

頑張っている姿に感心

原　達雄

早いもので、息子の林業大学校での生活も残すところ約半年となりました。

入学当初は親も心配な事ばかりでしたが、本人も不安で一杯だった事と思います。しかし、周囲の方々に支えて頂きすぐに楽しく、充実した日々を送れる様になった様で皆様には感謝致しております。

林業大学校での様子は、息子からの話の他に、木曽町内に住む友人や、地方紙、県内ニュース等から知る事があり、行事やボランティア活動の多さに驚くと同時に、頑張っている姿に感心しています。

一人、又一人と進路が決まっていくと思いますが、これらの活躍が人生への糧となり、社会に貢献出来る人間となっていくのではないかと思います。

残りの約半年間、悔いのない学生生活を送って欲しいと思います。

かけがえのない日々

ふるさと体験館
きそふくしま
榎本　浩実
（第35期生）

林業大学校に入学して、私の人生の方向の大枠が定まった気がします。私の人生にとって欠かせない、大切な二年間でした。お世話になった方々には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

里山の暮らしが学びたいと思い、大阪を出て奔走した二年間。二年生の時は最後の最後まで進路が決まらず、当時の先生方には大変ご迷惑をお掛けしました。同級生がどんどん就職先が決まっていく中、私だけが決まらなかったその時期は地獄のような毎日でしたが、今は自分と向き合う時間が沢山あって良かったのかなと思います。

私は今、木曽町の地域おこし協力隊として「ふるさと体験館きそふくしま」という体験交流施設で働いており、木曽の郷土文化を地域内外の人に伝える仕事をしています。必然的に里山暮らしを実践されてきた方々からその知恵や技術を学ぶことができており、とても幸せな毎日です。

私は、木曽が大好きです。趣ある町並みや雄大な自然も大好きですが、それ以上に木曽を支えている地元の人たちがとても魅力的で私は大好きです。特におばあちゃん達の話を聞きながら、厳しい自然の中で暮らしてきたその知恵を教えてもらうことが何よりの楽しみになっています。

木曽には、魅力的な人が沢山います。地域を盛り上げようと様々な催しに携わっている人、歴史に詳しい人、郷土食を守り受け継いでいる人…。

もし、皆さまに余裕があれば休みの日にそういった方々と交流してほしいなと思います。その人たちの生き様を間近にみることで、木曽で暮らす二年間がもっと楽しく、充実したものになるのではないかなと思います。

在学中も、卒業後も強く感じることがあるのですが、木曽の人たちは林業大学校生をとても良く思ってくれています。「林大生」というだけで、色々お話をしてくださったりよくしてくださることが多々あります。

一学年二十人という狭き門をくぐり抜け、ご縁あって木曽へ来られた皆さまには、ぜひ一歩踏み込んだ木曽の暮らしを満喫していただき、卒業後も木曽へ遊びに帰って来てくださると嬉しいなと思います。

学業以外でも頑張ろう

企画幹 兼 教授
比田井　章

この四月から林業大学校に参りました。木曽は地方事務所（地域振興局）も含めて初めての赴任地です。保護者の皆様、地域の皆様には大変お世話になりますが宜しくお願いいたします。

最初は何もかも知らないことばかりでしたが、学生の皆さんの名前・顔を覚えることから始め、最近は皆様方のお陰で大分慣れてきました。

四月のある日の放課後、男子寮と女子寮の間で数名がバスケットをしていました。それまでも野球のキャッチボールをしている光景はたびたび見ましたがバスケットは初めてでした。その後、ボルダリング練習壁が出現したり、様々なスポーツに取り組む姿が見られました。

若い頃のスポーツは体に筋肉といった貯金ができます。スポーツを止めるとこの貯金を使い果たしていく訳ですが、若い頃は貯金が作りやすいといえます。勉学に励む間にスポーツで体を鍛え、心身をリフレッシュすることは林大生活を乗り切るために必要なことです。積極的に運動をしてください。

また、赴任当初に感じたことのひとつに「アルバイトをよくしているなあ」ということがありました。ある程度は予想していましたが、意外と多くの生徒がしかも同じ所に長期で行っていました。

生活費等の仕送り負担の軽減や自分の趣味のためにアルバイトをする場合が殆どと思われますが、林大生の場合は木曽の地域社会に溶け込んで労働力を提供している感じがします。社会人の一部として働いているような気がします。

学業をおろそかにして働くことは本末転倒ですが、アルバイトにより社会の実情を知り、お金の大切さを学ぶには良い機会かと思います。学業に支障の出ない範囲でやりましょう。

林大生の二年間は大変忙しいと聞きます。そんな中でもスポーツやアルバイトなどをして充実した学生生活を送ってください。必ず将来、生活の糧となり、良き思いでとなることでしょう。

檜のアドバイス

「国際ウッドフェア2017」への参加

今年度、「国際ウッドフェア二〇一七」が平成二十九年五月二十四日～二十六日長野市において開催されました。これは、長野県とオーストリア共和国が、両者の間で取り交わしている林業技術者等に関する覚書に基づき企画し、自治体、国内外の林業従事者、メーカー及び商社等が交流を図り、グローバル競争で勝ち抜く「攻めの林業」の実現に向けた技術・ノウハウを習得する機会を実現したもので、日本では初の開催となりました。

期間中、長野県主催の様々な催し物が行われ、本校も、ブースを出展したほか、世界的な林業機械メーカーのハスクバーナ・ゼノア㈱と世界レベルのチェーンソー技術の供与、防護ウェア等のモニター等について協定を締結し調印式を行うとともに、同社の伐木技術を競う世界大会に出場したメンバーから、将来伐木作業に従事する予定の二年生十名がチェーンソーの扱い方の技術指導を受けました。今年十一月には、今回の協定に基づき本校において同メンバーによる一年生も含めた高度な伐木技術の講習を行う予定です。

また、本校学生及び林業を学ぶ県内の高校生が参加した意見交換会が実施されました。意見交換会の中で、本校は、「私たちが目指す林業」の姿について発表を行い、昨年度本校の学生が行った全国林業後継者大会における提案を、更に深化させた「5S（ファイブエス）」を提案し、最後に、それをベースとした「未来の森林づくりに向けて　信州の若者からの提言書」が、参加した各校の代表により朗読され、長野県林務部長に手渡されました。

学生による発表。
うまくできたかな！

『未来の森林づくりに向けて　信州の若者からの提言』
新・林業　5S（ファイブエス）

1つ　安全な作業環境に（Safety）
危険と隣り合わせでは就労する若者も増えません。女性でも誰でも働きやすい環境を。

1つ　効率のよい現場に（Smooth）
ドローンや衛星機器などを活用し、安価で使いやすい機械の開発により、林業現場の効率化、省力化を。

1つ　林業で稼ぐ（Salary）
林業で稼ぎ、家族と生活していける。地域に若者が残り、活性化に。

1つ　林業のイメージアップを（Smart）
子どもの頃から林業を身近に。イベントやゲーム、インターネットを通じて、林業のよいイメージを広げよう。

1つ　豊かな森林環境を次世代に（Sustainable）
豊かな森林環境は大切な財産です。林業を活性化することで信州・全国の山間地域を元気に。

私たちは、しっかり学習し、近い将来それぞれの現場で、理想の林業を目指して取り組んでいきます。

すばらしい提言ですね。

技術指導を受けています。

最後に集まって記念撮影です。

編集後記

毎年一年生は、七月上旬に登山道整備を兼ねて御嶽山に登っているのですが、今年は直前に木曽地域で震度五強の地震が発生したため、落石等の危険も考慮し、大事をとって登山を中止しました。楽しみにしていた学生もたくさんおり、大変残念な結果となってしまいました。

御嶽山といえば、三年前の突然の噴火により不幸にも多くの犠牲者を出しましたが、最近は火山活動も落ち着き、先日の地震の影響もあまりなかったようで、頂上まではまだ行けませんが、安全に登れる山となってきているようです。一年生の皆さんも、学校行事としては登れませんでしたが、卒業するまでにぜひ一度登ってもらいたいですね。

■事務局　長野県林業大学校内　〒397-0002　長野県木曽郡木曽町新開4385-1　TEL 0264-23-2321　FAX 0264-21-1058